

# 環境だより

22猿住公第14号

地球温暖化対策版8号

発行日：平成22年12月28日

発行元：住民課

## 活動報告

### 第3回猿払村地球温暖化対策地域協議会開催

日 時：平成22年12月3日（金）

場 所：役場第5会議室

出席委員：19名／25名

## 【平成23年度取組事業の骨格固まる】

### ①地域協議会の取組事業

#### ●エコ診断(省エネ)事業(新規)

家庭や事業所に診断者が直接訪問し、「エコ」にも「家計（事業費）」にもプラスになる対策を提案します。

#### ●標語募集事業(継続)

小中学生を対象に「地球温暖化防止」をテーマにした、啓発標語を募集します。

#### ●エコ通勤事業(新規)

地域が一丸となって、環境にやさしい「ノーマイカーデー」や「エコドライブ」の実践を通し、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指します。

※ 具体的な事業内容等については、平成23年度の第1回猿払村地球温暖化対策地域協議会で決定後、住民の皆さんにお知らせいたします。

### ②部会独自の取組事業

#### ●省エネルギー部会

- ・猿払村全域街路照明灯現地調査
- ・カーボンクレジットの活用について情報収集

#### ●クリーンエネルギー部会

- ・CO<sub>2</sub>排出量削減への取組み支援事業検討
- ・カーボンクレジットの活用検討

#### ●水産系バイオマス部会

- ・ほたて貝殻リサイクル製品の利活用検討

#### ●ごみ減量化部会

- ・ごみ処理システムの見直しに係る情報収集

#### ●酪農系バイオマス部会

- ・バイオマスの高度利用検討

#### ●林業系バイオマス部会

- ・現在、検討中

※『部会』とは

猿払村地球温暖化対策地域協議会内に6つのワーキンググループを設置し、部会毎に活動テーマを決め、自主的にCO<sub>2</sub>排出量の削減等について検討を行う会のことです。

※『カーボンクレジット(カーボン＝炭素・クレジット＝排出枠)』とは、

日常生活等から排出される二酸化炭素を森林育成や太陽光発電等を利用して削減する際、余剰分の排出枠を他に転売出来る制度。(例えば：自前で排出削減の出来ない事業者が、他の人から排出枠を買い取り、自分の二酸化炭素と相殺が出来る。)

※『バイオマス(バイオ＝生物・マス＝量)』とは

動植物から生まれた再生可能な有機資源、代表的には、家畜からの排泄物、生ゴミ、ほたてウロ、木くずなど。

# ファミリーエコ実態調査結果

『取組意識は高い』  
約87%

『CO<sub>2</sub>削減量が低い』  
約23%

住民のみなさん  
ご協力いただき、ありがとうございました

エコ行動の実践奨励を図るため、また、皆さんの取組み状況を把握し、今後の取組みの参考とすることを目的にアンケート調査を実施いたしました。

その調査の結果（概要）は、下記のとおりです。

回数	調査期間	回収率
1回目	H22.06.01～07.05	182/1082世帯 16.80%
2回目	H22.10.01～10.20	309/1082世帯 28.60%

- アンケート用紙：全戸配布（データ集計：（財）北海道環境財団）

## 【調査結果から】

- 回収率が全体的に低かった。
- エコ行動を数値化した場合、あまり差がなかった。（1回目と2回目）
  - ◆ 現状の取組み行動の把握が出来た。
- 取組み意識が非常に高い。（回収したアンケートから）
  - ◆ 約60%の世帯が実践している。
  - ◆ 「これからやる」も含めると約87%であった。
- CO<sub>2</sub>削減量が低い。（＝実践行動が低い）
  - ◆ 「いまやっている」と回答したCO<sub>2</sub>排出削減量は、一人当たり平均135kgで年換算にすると約23%の削減であった。  
（アンケートの項目を全て実施した場合、566kg／年の削減となる）

## 【今後の課題】

村民一人当たりのCO<sub>2</sub>削減目標値  $-10\% = 2.29\text{t-CO}_2/\text{人}$

猿払ECO  
CO<sub>2</sub>-10%  
チャレンジ

平成22年度 親子でつくる地球温暖化防止入選標語

《少しでも エコにつなげる 自分の行動》  
《ぼくたちの 小さなエコが 地球を救う》